

しま っ
対馬丸 — さようなら沖繩 —
ドキュメンタリーアニメーション

日時：平成27年8月23日(日)

13:30 ~ 16:30 (開場 13:00)
会場：大和市保健福祉センターホール

企画／映画センター沖繩連絡会議
原作／大城立裕
(理論社刊)
制作／対馬丸制作委員会
制作協力／映画「対馬丸」成功させる会
協力／対馬丸遺族会
主題歌／サウンドトラック
ビクターレコード



「お母さん、ボクが行ったら淋しいかい」
「そりゃね、いまだって行かせたくないわよ……」

昭和19年8月22日、学童疎開船対馬丸は魚雷攻撃を受けて沈没。
死者1,458余名、生存者236名。

平成27年度 大和市平和都市推進事業
●チケット：一般 / 前売り 500円 (当日 800円)
18歳以下 / 前売り・当日とも 100円
※チケット料金には主催者より補助が出ています。



●チケットの取り扱い

イオンモール大和、イオンモール大和、イトーヨーカ堂大和鶴間店、イオンつきみ野店、イオン大和店(高座渋谷)、大和市役所 国際・男女共同参画課 ※前売り開始 7月15日(水)

※保育(2歳~就学前幼児、予約制、先着8名)あり

※問い合わせ・保育予約は、国際・男女共同参画課 TEL 046-260-5164

●ヒロシマ平和学習派遣事業報告会あり

主催：大和市・大和市平和都市推進事業実行委員会

あらすじ

昭和19年7月、沖縄各地には続々と兵隊が送り込まれ、戦火が身近に迫っていた。そんな中、那覇国民学校では重苦しい緊張感につつまれて、職員会議が開かれていた。

「学童疎開は国家に対して我々の出来る最も身近な御奉公だ。軍の要請で働ける者以外は全部県外へ出て行かねばならない」

「疎開船が潜水艦にやられた場合、責任は誰が……」

「疎開は国策です」

不安を感じはしたものの、学校は兵隊の宿舎となり、子供たちさえ連日飛行場づくりの作業をするような沖縄よりも、本土へ行ったほうが満足な教育が出来る、と考える教師もいて、疎開する児童集めが急ピッチで進められた。父兄は大方子供を手放すことの不安を訴えた。途中の危険、向うでの生活、何ひとつ安心できる材料はない。教師たちも不安を解消させるほどの確心はなかった。そんな中で子供たちだけは、

「ヤマトへ行けば雪が見られる」

「汽車に乗れる」

「勉強して少年航空兵になるんだ」

などと、修学旅行に行くように喜んで疎開したがった。

清は母親の反対を押し切って行きたいと訴え続けた。また親に内緒で疎開手続きをする子供もいた。

8月21日、対馬丸乗船のために、港には約5,000人の疎開者と見送り人が集まった

「乗るのは軍艦じゃないんですね」

厚い雲に覆われた空とともに、親たちの胸に不安がよぎる。絶壁のように高い対馬丸の船腹を登り、甲板に降り立った子供たちの中には、親と離れた淋しさにベソをかく子もいたが、多くの子は初めての大きな船に興奮し楽しんでた。

午後6時30分、船が動き出した。生憎小雨が降り始めた。

「沖縄が見えない。この旅行は汚れたな」

健治たちは肩を濡らしながらませた冗談を云って笑い合

った。

子供たちのざわめきを載せて、対馬丸は進んでいく。

翌22日夜。船はいよいよもっとも危険な海域に入った。

「老朽船だからスピードが出ない。ジグザグコースを走って、潜水艦攻撃を避けるべきだ」「しかし、それでは到着が遅れる」

輸送指揮官が船長を制して、船はほぼ直線に進んだ。

「今夜さえ無事なら、明日は本土につく。眠らないで警戒しよう」

教師たちは、万一を考えて、なるべく子供たちは、甲板に眠らせた。しかし、半数も甲板に上げれば、もう横になる場所もないのだった。昨夜騒ぎすぎた子供たちは、その疲れか、早くからぐっすり眠り込んでいた。22日夜10時12分「ドーン」

第一弾命中、つづいて第二弾、第三弾。

三発の魚雷を受けた対馬丸は天にとどくような火災を発生して11分後に沈没。

船内は大混乱だった。目を覚さない子供たちを教師は投げとばして起す。人の頭をふみながら縄梯子に殺到する子供たち。甲板では、船員や高学年の子供が、舷側を越えられない子供たちを海に投げた。親子で、子供たちどうして、手をとりあって海に飛び込む。

しかし、大半の子供たちは船とともに沈んだ。

浮遊物やイカダにつかまった子供たちを、台風の高波が襲う。フカが襲う。運が良い者は翌日漁船に救われる。6日目に島に流れついた子もいる。8日目に助かった者もいる。

約一ヵ月後、清をはじめ5人の子供たちがひっそりと沖縄に戻されてきた。絶対に沈没の秘密を守るようにいわれて…10月10日、初的那覇空襲。人口6万の那覇市は焼土と化した。燃え上がる狂気のような炎を見ながら清は口を開いた。「対馬丸は沈んだんだ。健ちゃんも勇ちゃんも海に飛び込んで死んだよ。ボク何も話せなくて、つらかった……」

プログラム

第一部 13時30分～ヒロシマ平和学習派遣事業報告会

休憩

第二部 アニメ「対馬丸」映画上映

終了 16時30分

「講演と中国茶を楽しむ会」

大和地区日中友好協会〈公開文化講座〉

日時：7月18日(土) 午後2時~4時

会場：大和市生涯学習センター204 特別室 (深見西 1-3-17)

対象：中国理解を深めたい市民 (先着50人)

参加費：500円

講演：「中国の庶民と社会は、今」(南京生活11年に出合った人々と生活)

講師：鈴木 征四郎氏

実演と指導：「中国茶の楽しみ方」

講師：葛 尤静(かつ・ゆうせい)女史

最近、街中で「ニイハオ」とか「シェシェ」とか「ツァイチエン」等の中国語をよく耳にしませんか？ 訪日観光客だけではなく、在日の中国人も増えています。外国人の在住比率が高い大和市に住む市民として、私たちは広大な隣国とその人々をよりよく理解することが不可欠でしょう。

今回の集いが、日中の友好・交流を願う善意の人々の中国理解に一助となれば、この上ない幸せです。どうぞ奮ってご参加ください。

主催：大和地区日中友好協会 (会長 遠藤了一)

2015年5月吉日

中国語教室にもご参加を！

当協会には二つの中国語教室があります。団塊の世代のシニアの方々も再びの学びを楽しんでみませんか？ レッスン体験、見学も歓迎します。

○初級・土曜クラス：第1, 2, 3土曜日 13時~15時 (西鶴間コミセン)
学費=2000円/月

○初級・木曜クラス：第1, 2, 3木曜日 9時~11時 (生涯学習センター)
学費=2000円/月